令和二年度

しろつばき展示会

# 白椿川柳会・一般投句集

# しろつばき展示会投句集

課題

「涙」「帰」「自由」各題三句

## 【一　般】

### 舟山善之

・黄金色空の涙に稲刈れず
・杉花粉涙ぽろぽろ鼻ぞーぞー
・コロナ禍で帰省できずにオンライン
・家帰る猫が主人で俺が部下
・今流行り草むら歩く黒い影
・食い過ぎを栄養補給と言い訳し
・ついに来た「あれ」「これ」「それ」の50代

### 髙橋夢城

・修学旅行出来ず生徒は涙いている
・初ひこは帰省出来ずなくばかり
・オリンピック勝って涙で世が明ける
・孫たちは帰省出来ず泣いている
・帰省客コロナ殺して帰って来い
・新コロナ居て帰りたくても帰れない
・ゴミの国明日の日本どこへ行く
・新コロナ世界中をふりまわし
・今日も又ロケット弾がとんで行く

### 土田達雄

・甲子園勝も負けるも涙あり
・ドラマ見て心うたれて涙する
・記録会中止中止で涙する
・出征し待てどくらせど帰らない
・熊が出て児童の帰宅待っている
・黄門さん世直し終えて春山荘
・試食会一口食べてう～んと言う
・コロナ禍で前の生活いつ戻る

・秋の夜空が澄んで月きれい

## 髙橋トヨ子

・年重ねるい線ゆるみ出る涙
・亡き母の墓前で話し涙する
・幸せのうれし涙でかすむ顔
・コロナ禍で買い物いそいそ帰宅する
・古里へ帰りたいけど帰れない
・鏡のまえ昔の姿に帰りたい
・コロナ禍で見舞いに行けぬ淋しさよ
・タブレット孫に会うのが楽しみだ
・屋敷林黄金に染まり日本一

## 安部洋一

・初優勝賜杯持つ手に涙落ち
・村芝居人情劇に涙して
・詐欺電話涙声出し親だまし
・帰る日を指折り待った父は逝く
・国の為木箱になって父帰る
・野良帰りかわず合唱背中で聞き
・柳界の巨匠かがやく星となり
・子供らの笑顔支えに生きた母
・孫が来て老々家庭に笑声

## 加藤秀夫

・八十路過ぎ感情もろく涙出る
・玉音の放送聞いてただ涙
・デモ散らす催涙弾が効果です
・白鳥はふるさとめざし北帰行
・帰り待つ母岸壁で祈ってる
・登下校すずを鳴らして安心だ
・熊こわい茸も欲しい秋の山
・散歩する妻といっしょが至福
・コロナ禍で生活リズム一変す

## 後藤信義

・苦労して賜杯片手に目に涙
・涙声スマホ向の孫の顔
・お別れも面会中止涙なし
・刈後へ追われて帰る群れすずめ
・トランプ氏三日で帰るホワイトへ
・賄いも高値の花だイカサンマ
・ウイルスで腹音響く国技館
・撫(ぶな)不足熊にあげたい支援策

## 【会　員】

## 梅沢　旭

・巣立つ娘のお守り袋染む涙
・被災地の涙復興する決意
・感動の涙あふれて老達者
・農一途夕日を浴びて帰る幸
・命継ぐ帰るふる里家を継ぐ
・帰ったとうら声つかい口説く猫
・ぜいたくと質素炬燵で辞書を引く
・雑草の根気と婆ちゃん手の根気
・勝をほめ負けても努力ほめる母

（間引き菜も山菜も山菜も旨い日々達者）
（不況などどうあれ夜蛙賑々し　　）
（再開の渾名竹馬の泣笑い　　）

## 北原　実

・オネダリで辣韮涙流す孫
・友去りて流す涙の訃報蘭
・芝居見る喜怒哀楽の村祭り
・屋敷林に夕焼け小焼けの似合う町
・腰を曲げ迎えてくれる母がいた
・帰ろかな今は自粛の我慢時
・家の孫何時も元気な豆タンク
・大の字に雲の流れと草枕
・ジージジージと言われる時に老いを知り

## 伊藤綾女

・汗と涙知ってる母の割烹着
・同情の涙すっきり前進み
・血と涙選手日の丸背に受ける
・コロナ禍で帰省我慢の涙声
・帰路リズム待ってる愛妻と冷えビール
・帰る度やすらぎ色の里の風
・幸せを花と語らう朝の如露
・撒けば生えやがて花咲く人生路
・花野行きコロナ自粛でまだ逝けず

## 住吉吉郎

・花束を受けた親父の目に涙
・少年の澄んだ涙を信じあう
・脱ぎ捨てた殻に涙の跡がある
・耳寄りな話を聞いて妻帰る
・長男が出かせぎ帰る夢の中
・廃校の窓に山彦帰ったまま
・薄味の妻の料理に長生きし
・有りあわせ作った料理の妻の味
・ときめきの匂いを乗せた春の風

## 佐野和市

・ネギ刻む厨房に立って涙跡
・杖替わり支える孫に涙ぐむ
・徒子母に叱られべそかいた
・帰省の子老いの手を取り舟出する
・切符買い走り続けた帰り道
・父帰る妻の一声給料は
・花便り祭り賑わう過疎の里
・これ程の努力望みに笑われる
・定年の話題明日は妻と組む
・新米がうまいたべすぎコロナぶとり
・毎日の天気がきになる菊の花
・空を見ていつくるかな白い世界

## 佐藤清美

・クーラーバックおやつ入れてる涙ポタリ
・文化祭いつも見ている会長の姿
・志田会長川柳教えて涙でる
・寒いなあ早く帰って湯豆腐だ
・孫たちの帰りがおそいクマでるな
・あじまん早く帰ってみんなで食べよう

十一月となり徐々に寒さが身に染みる今日、周り景色の紅葉も美しくなりはじめ、そして又、雪囲い等の準備に追われるこの頃となりました。

先日行われましたしろつばき展示会におきまして、皆様からの川柳の投句をして戴き誠にありがとうございました。体育館で行われた展示物の中でもひと際皆様から頂いた句が華々しく飾られたことに深く感銘いたしました。

いつもと違った雰囲気の中ではありましたが、十分に味わいのある展示会に出来上がったことに皆様方への感謝の念に堪えません。

生前一生懸命であられた（故）志田月歩会長の思いをいつまでも絶やさないためにも、私たちのやるべき事、まだまだ足りないのだと感じております。今回の展示に多分喜んで戴けたのではないでしょうか。その意味でも、これからの文化の一環としての川柳を継承していけますよう皆様にお願い致していかなければと感じております。

今後共、公民館活動につきましてご協力ご支援いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

館長　松山孝市